

災害廃棄物処理における仮置場の重要性について

令和3年12月17日



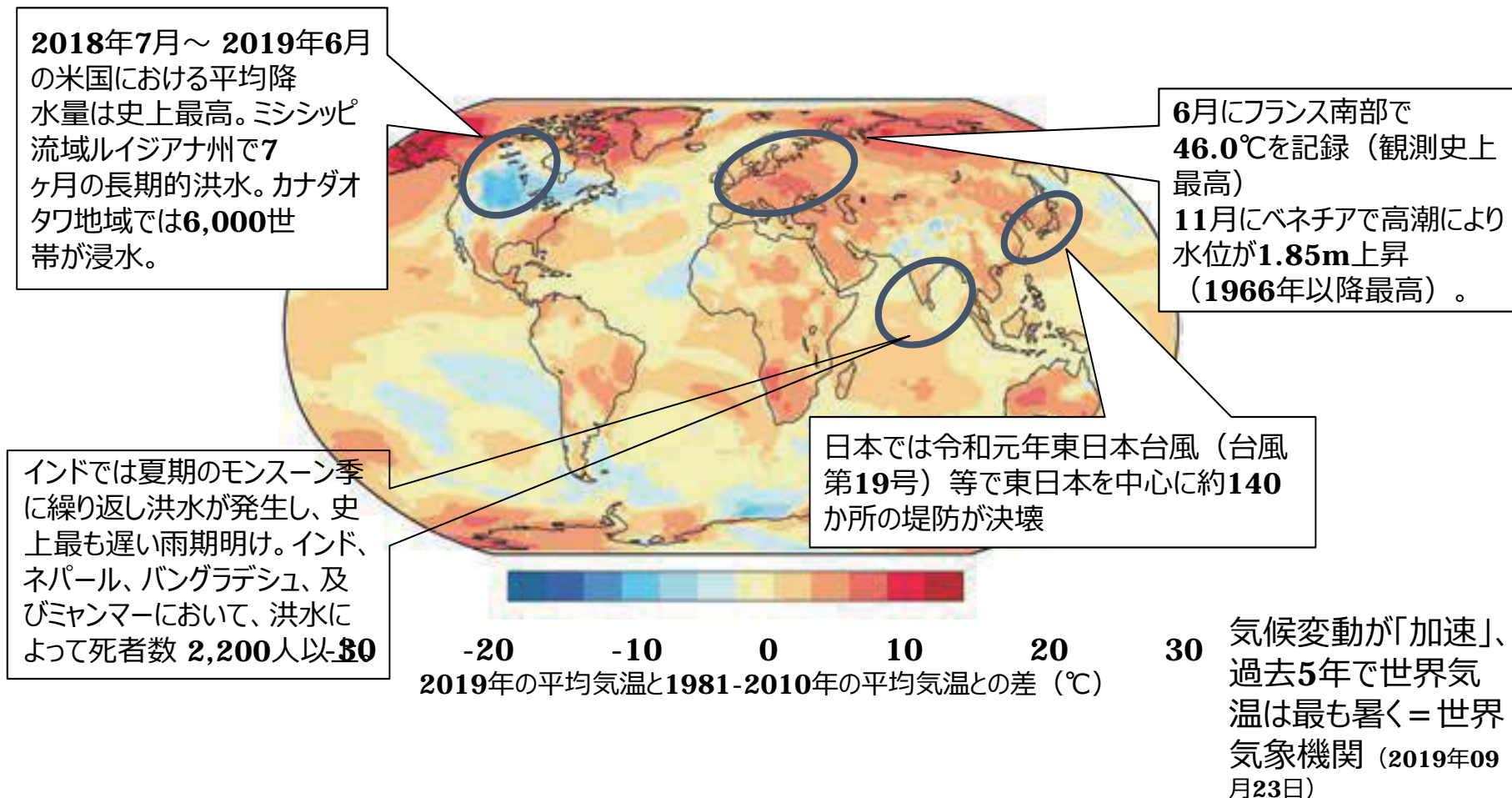
環境省近畿地方環境事務所 資源循環課

世界気象機関は2019年の世界各地の異常気象

n 国内外で深刻な気象災害が多発、地球温暖化で今後気象災害のリスクが更に高まると予測。

n 「気候変動」から「気候危機」へ。

- 直近20年間の気候関連災害による被額は、合計2兆2450億ドル。前20年間に比べ2.5倍に。
- 海外の都市を中心に「気候非常事態宣言」の動きや若者による気候変動対策を求めデモも活発化。



資料：「WMO State of Global Climate in 2019」から環境省作成

近年の大規模災害における災害廃棄物の発生量及び処理期間

災害名	発生日月	災害廃棄物量	損壊家屋数	処理期間
東日本大震災	H23年3月	3100万トン (津波堆積物1100万トンを含む)	全壊：118,822 半壊：184,615	約3年 (福島県を除く)
阪神・淡路大震災	H7年1月	1500万トン	全壊：104,906 半壊：144,274 一部損壊：390,506 焼失：7,534	約3年
熊本地震 (熊本県)	H28年4月	311万トン	全壊：8,668 半壊：34,492 一部損壊：154,098	約2年
平成30年7月豪雨 (岡山県、広島県、愛媛県)	平成30年7月	189万トン ^(※1)	全壊：6,603 ^(※2) 半壊：10,012 ^(※2) 一部損壊：3,457 ^(※2) 床上浸水：5,011 ^(※2) 床下浸水：13,737 ^(※2)	約2年
令和元年房総半島台風 ・東日本台風	R1年9月、10月	154万トン ^(※3)	全壊：3,650 ^(※4) 半壊：33,951 ^(※4) 一部損壊：107,717 ^(※4) 床上浸水：8,256 ^(※4) 床下浸水：23,010 ^(※4)	約2年 (予定)
新潟県中越地震	H16年10月	60万トン	全壊：3,175 半壊：13,810 一部損壊：103,854	約3年
広島県土砂災害	H26年8月	52万トン	全壊：179 半壊：217 一部損壊：189 浸水被害：4,164	約1.5年
令和2年7月豪雨	R2年7月	54万トン ^(※5)	全壊：1,621 ^(※6) 半壊：4,504 ^(※6) 一部損壊：3,503 ^(※6) 床上浸水：1,681 ^(※6) 床下浸水：5,290 ^(※6)	約1.5年 ^(※7) (予定)

(※1) 主要被災3県の合計（令和2年7月時点）

(※2) 主要被災3県の公表値の合計（平成31年1月9日時点）

(※3) 被災自治体からの報告の合計（令和3年1月末時点）

(※4) 内閣府防災被害報告の合計（令和2年4月10日時点）

(※5) 被災自治体からの報告の合計（令和3年1月末時点）

土砂混じりがれきを含む。

(※6) 内閣府防災被害報告の合計（令和3年1月7日時点）

(※7) 熊本県分のみ（令和3年1月末時点）

災害廃棄物対策の重要性

- Ⓟ 災害時には、**様々な種類を含む廃棄物**が、**一度に大量に**発生。
- Ⓟ 災害廃棄物の適正かつ円滑・迅速な処理は、**生活環境の保全・公衆衛生の確保のため**に非常に重要。
- Ⓟ 災害廃棄物の迅速な処理は、被災地域の**早期の復旧・復興**のために必要。



事例1
公園に集積された
災害廃棄物



事例2
道路端に集積された
災害廃棄物



事例3
自治体管理の仮置場に混合状態
で搬入された災害廃棄物

事前準備(災害廃棄物処理計画)に基づいた
迅速かつ適切な初動対応が重要！



事例4:自治体管理の仮置場に分別されて適正に管理されている災害廃棄物

災害時に発生するごみの処理の流れ

